

正月の話

◎新年おめでとう
年々歳々迎える正月です
が、そのたびごとに新しい
慶びと、希望と決意に胸を
ふくらませます

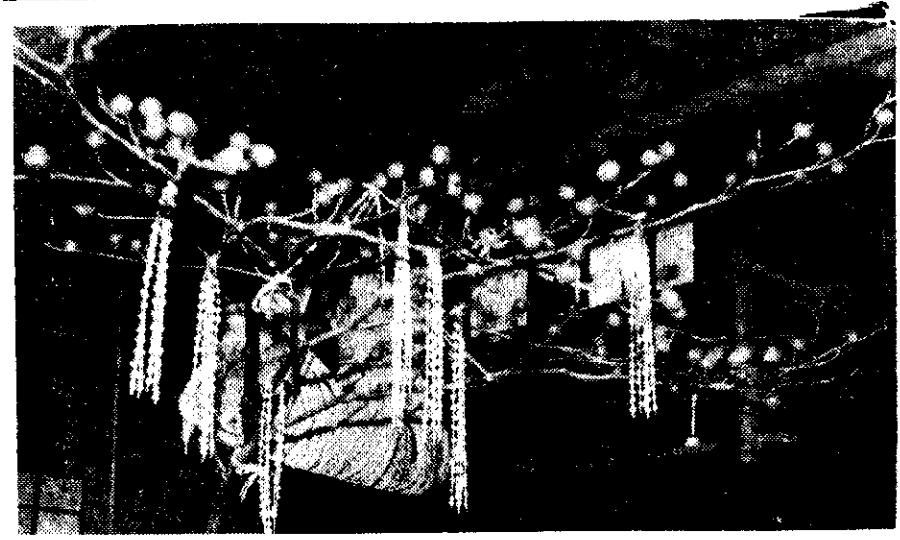


駒形先生

原字力時代とか、オールド
メーション時代とかいわれ
ている今日でも、遠い昔、
それも今から何千年も前か
ら行われて来た古いしきた
りであるのに、これを迎え
るたび新しい感激が湧いて
くるのはなかに、面白い事
です。

◎新暦、旧暦、一月遅れ
の正月
今日では殆んど正月は新
暦になつて来たようですが
それでも山間地方では舊暦
とか、一月遅れの正月とか
いつている所もあるよう
です。

今から約千四百年ほど前
シナ大陸から暦の法が輸入
され、長い間一般に用いら
れて来たのが大陰暦、つま
り舊暦なのです。



小正月の作かざり

そこへ文明開化の明治五
年、いままでの長い歴史を
もつ舊暦を廢して太陽暦を
用いるようにしました。
われわれの生活の中の傳
統とか長い間の習慣は一朝
には改りません。
ことに耕転、種子おろし
などは舊暦という變つた形
が今日見られるのです。
そこへもつて来て更に、
暦だけは新暦で、行事の期
日はなるべく舊暦に近づけ
ようとする「一月遅れ」で
行おうとするものまで生れ
現狀では暦は全く乱れてい
ます。

そこで正月も三通りの期
日があるという具合になつ
てしまいました。
新暦でもけつして農業や
漁業を無視してはいるので
なく、むしろ正確にそれを
表示しているのですから、
早く新暦に統一されなけれ
ばいけないと思ひます。
◎大正月、小正月
正月というお祭は非常に
古くからあつたようです。
シナ大陸から暦の輸入さ
れるまではわれわれの祖先
達は正月の満月の夜をもつ
て一年の始まりとして年始
めの行事をまじりていたの
が、その後のシナ大陸から
輸入された太陽暦では、朝
日(月の出ない日)をもつて
一年の始まりとしており、
その風が普及されました。
これを機にいままで正月
の満月に行われて来た一連
の行事も二つに分れ、朝日
の行事を大正月、満月の正
月を小正月と呼び分けられ
正月が二度になつてしまつ
たのです。
だから結局、正確に正月
を数えるならば、新、舊、
一月遅れの三回にそれぞれ
大正月、小正月とあり、合
計六通りの正月があること
になりこよみの混乱は大變
な事です。
(十日町高校教員)

年男の由来

江戸時代武家の邸では新
年を迎えるにあつて、一
家を代表してツイナの豆ま
きをから正月の諸儀式を行
うのを定めた。それを年男と
稱していた。これが後には
単に節分の豆まきをする代
表者のことを呼ぶようにな
り、更に近代では神社、佛
閣において、その年の干支
(エト)にあたる女優や力士
などの人気者を選んで年男
となづけ、それに豆まきの
行事を行わせることが流行
する様になつた。

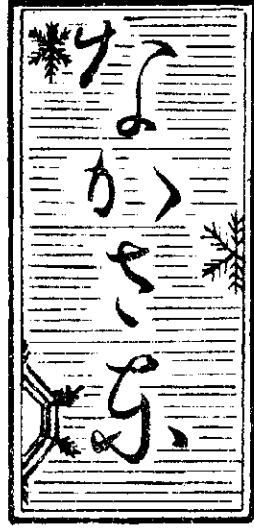
清津峡にて

井ノ川 稔

赤と黄のモザイクのか
いまいかに
碧い十月の空が笑つてい
る
あの笑いは谷底にとどく
のだらうか
聞こえてくる谷川のおと
あれは悲泣に違ひありま
せん

短歌

中一 山田 ハナ
おじいさんに年賀電報来た
と云えば驚くように微笑う
かべる
中二 山田 マスエ
今年もよき作取れるように
と神棚に燈明供えて父祈る
前髪に解れたる雪を姉上は
かるく拂いぬ元且の宮
ローソクの炎は高くゆらめ
ける朝のお宮に初参りする



所民館 行公所 社
中里村 刷新 社
十日町 十日

年頭の辭



村長 渡辺利三

新年御出度うございま
す。
村民皆様の絶大なご協力
によつて、着々と諸懸案に
向つて推進して居ります
の、其の微力にして及ば
ざるを反省して居ります。
智慧のしほり様もあつた
ではないかと考えさせられ
皆様のご期待に添うことの
出来得なかつたことを衷心
おわび申し上げます。
驚馬に鞭打ち一身を挺し
て力加して頂き度いと念願
して居ります。村民皆様方
の一層のご協力とご鞭撻と
をお願いする次第でありま
す。

親愛なる中里村の皆さん
新年お目出度うございま
す。
一年の計は元且にありと
古人はいう。宜なるかな春
夏秋冬夫々に予定される計
畫は過去の経験を土台とし
て、精密な設計のもとにそ
の事によつては前進し、完
成し、又は継続し、よりよ
い平和で豊かな生活とわれ
らの人生觀、社會觀の涵養
にある。
凡そ平和であつて村民の
融和のある所程幸福な生活
があり、自治体の發展も期
し得られると思ふ。
躍進する中里村は、第一
段階として田澤村、倉俣村
の合併によつて新生中里村
が誕生し、昨秋貝野村の大
半を吸収して、一万一千有
余の人口となつて、大念願
の中野合併は昭和三十四年

新年を迎えるに當つて

永井 順平

三月末を目標として進むこ
と、なつた。
これがためには村当局者
だけではなしに、村民全般
特に各種の單位団体、或は
各種の機關組織という凡そ
全体の協力体勢が、このう
てのみ事の円滑が期せられ
一歩々々前進するのです。
二度の合併によつて村民
が自治というものについて
身近な氣持と切實な關心を
持つたことはかつてないこ
と、思ひます。
みんな自分の村をどうす
るか、自分の部落をどうす
るか、自分で考え、考えざ
るを得ないことは最大の政
治的淘汰、最大の民主的な
教育だと存じます。
この間にいろいろいさこ
ざがあつても結局落まつ
てゆく、いわば滔々たる流
れの上に現われては消える
るなり云々」とあり、天明
の初年、岩手の胆澤地方で
は早晩に童ども起き出て大
筆を雪の上に伏せて、これ
を叩き乍ら「早稲鳥といこ
う、早く鳥は頭割つて塩せ
のをくう鳥は頭割つて塩せ
て遠鳥さい追つてやれ」と
いひ、又別の村では「猪、
鹿勘六殿に追われて、尻尾
はむつくりほうほうといと
追つていた」という記録が
あり。

鳥追

正月行事の一つ
農家としては主
要なものと考え
られていたが、
現今は神事また
は音楽等の曲目
に對する外は多
く兒童の遊戯化
して本意は失つて
小正月即ち十五日の晩に
行く土地が多いが、この地
方では十四日に行く。

その年の田畑に害をなす
鳥獸を追退けると、その
意味の唱い言があり、村の
兒童または若者がさらさら又
は、杓子、棒等を打ち家
家を廻る。
鳥追の行事は、土地によ
つていろいろの唱があるが
人間生活の支障となるすべ
ての災厄を掃蕩の意があつ
て、鳥はたまた、その代表
の觀がある。これは一面に
は鳥を靈魂の象徴とする古
代思想の影響がある。
「近世々事談」に三河國
の譚として、遊行上人行脚
の折、村の土人歳首の禮を
長者の家になす。その中に
さうらをすりてうたうもの
數人あり、いかなるものぞ
と上人尋ねられしに、鳥追
と云うものなりとぞ、蓋し
鳥追は長者の田圃の鳥を追
う許りの勤めに、妻子を
養う者ども、長者の歌をう
たい、年の始めの詩をのぶ
ある。

自治の發展は住民の双肩
にあり、廣く會議を興して
進むべき道はるか遠しとい
えども、一歩前進を。終り
に本年も幸多かれと祈る。



人を植える事

中里村公民館長 大島 孝平

年頭に当って

一休和尚は「正月や冥土の旅の一里塚」と詠んだ。一休の様な大聖人から見れば正月も格別目出度い事でないかも知れぬ。然し若々凡人から見れば越されずすに越す年の瀬をようやく越し、さて心静かに除夜の鐘を聞く時、始めてやかましい世間のきつなを断ち切つて、何も彼も新しくなつた気がする。

其時吾知らずお目出度いと云う言葉が出て来る。その出来なないながらも一年の計画を樹て、今年こそはと云う決心が若若男女を問はず胸に浮ぶのである。

「一年の計は穀を植えるにあり、十年の計は木を植えるにあり、百年の計は人を植えるにあり」と世相は

楽しい新生活運動

呉社会教育主事 五十嵐 秀太郎

氣のあつたものが四、五人で集つて話し合うことは楽しいものだ。

冬農家の若い衆が、縄ないや、わらじ作りを友達の家へ持ち寄つてだべり(シヤベリ)合つたり、おかみさん方が、つけ菜をたべながら世間話をしているのは本當に楽しそうだ。

そうした楽しい話しあい一つ一つの方向が生れ、横に手のつなぎ合ひができればそれがそのまゝ、青年団活動であり、婦人會活動である。

私には新生活運動は楽しくてしようのない、集まらずには居れない運動でなければならぬと思ふ。

そう云うものであつてこ

變つても此言葉は不朽の名言であると思ふ。

吾々お互が日常生活を營む上に於て、經濟的に楽でない故に其爲に全身全霊を打ち込んで行く。

然し日常生活する事のみが人間の全目的ではない。何か自分の職務を通じて人間として生甲斐のあるものに努力する事でなければならぬ。

今日十年の計として必要などであるが、木を植える事、必ずしも吾々の計画の万全ではない。

そ地についたものとなり長が続きがする。

國や縣が一生懸命だからまあうるさいが集つて見ようか、ではやがて消え去つてしまふ。

取上げられる問題は、大人の身勝手が子供をまけてしまふ問題もある。

農家を住みにくくしていと云うこともある。

又家本位の結婚から個人と個人の結びつきとしての結婚にならねば、と云う様な話も出るかも知れない。

その様な問題を話しあふことの中から、暮しを見つめる眼が生れ、家庭の人間關係を變え、やがて村や社会の姿を變えて行くにち

道徳とは何であるか。それは長い間の人間社會における「公衆善」の自然慣習であるといふことだからしたから、それは重大なる言葉である。

粉花濃淫之に近ざるを偉とすべし。併し近づいて之に染まざる、更に偉とすべし。

今日の社會はあまりに複雑であり、あまりにも難し。年頭に当り一年の計を樹ると同時に更に人を植える事を痛切に感ずるものである。

中心になる人、世話役とも言おうか、普通指導者と云われる人は、急いではならない。

じつと話し合ひの生長をまつのがいい。

中心になる人は、何より話しあふことの楽しさと意義を知り、それをまわりの人達に分ちあうことのできる技術を身につけていなければならぬ。

中里村におかれては一年からこの問題に取りくんでこられた。

この運動が氣軽な、楽しい運動として一般の方々の中に浸透し、村作りの力となることを祈つて止まない

新年お目出度いおめでとう

老化防止と若返り法

上村病院々長 上村 正子

除夜の鐘と共に昨日と同じ井戸水も殊更に清く感じつゝ、洗面をすまし、今年こそはと何かしら張切つた嚴肅な氣持で一同揃つて神社参りに出かける。毎年の事ながら幾つになつてもお正月が来たと言ふ事のうれし氣持を感じるの私ばかりではないと思ふ。

ほんの此の間父につれられて鎮守様、薬師様とお参りして歩いたと思つたのに、そしてお正月を迎えた喜びの氣持は、其の頃とちつとも變つていないのに其の父も死亡して三十二年目を迎える母は六十八歳、私も何時の間にか父の死亡年令を二年も通り越している。時々人様に「先生は田澤へ来た時とちつとも年を取らないね何時も同じですね」と云われる。然したまには「先生年取つたね」と云うお方もある。時に依つて私の面相も色々に變るらしいが、概して「何時も若いね」と云つて下さる方が多く、私の母も人様は年を聞いてびつくりされる。たしかに十歳

位若く見えるし、事實元氣もいゝ。そして何をたべていてそんなに年を取らぬかと問われる事が度々ある。それで今日は多くの學者の意見に私共の体験を加えてお話ししてみよう。

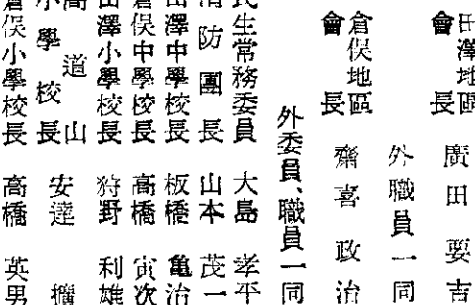
先ず人間の壽命は天から與えられた體質と其の育つ環境の良否で定まるものであります。そんなら天賦の體質が最上で環境も最上の場合は幾つ位迄生きるかと申しますと、大体百十五歳前後であるかと云われています。昭和三十年の日本人の平均壽命は男子六十四歳、女子六十八歳で、之を外國に比べますと世界二十カ國中最も平均壽命の短い國はエジプトで男子三五・七歳、女子四一・五歳で一番長壽の國はオランダで男子六九・四歳、女子七一・五歳でありますから、日本人の壽命は中位より上に立っています。では此の壽命と云ふものはどうして決まるものであろうかと申しますと、其の要素は結局體質の強弱と環境の良否で定ま

- るだけでありまして、之をもう少しくわしく考えますと次のようであります。
- 一、主体(身心)
 - (1) 先天性體質の良否(生れつきの體質の良し悪し)
 - (2) 獲得性體質(生れてから後に得る免疫、体格、栄養)
 - 二、環境
 - (1) 自然環境 住地の氣候風土、氣節の變化。
 - (2) 社會環境 国民生活水準、社會の衛生状況、醫學の水準及び其の普及状況、公衆衛生の普及状況。
 - (3) 個人環境 生活程度、職業、生活態度(酒、煙草、衛生等)
- 以上の様な多くの要素の良否の總合に依つて壽命は定まるものであります。次にそれでは個人々々の壽命を予測出来るかと云いますと、之は如何に醫學が進歩したとしても確實に予測する事は不可能ですが、然し色々の要素に就いて色々な組合せで大体確率的に予測出来るのであります。
- (以下次号)



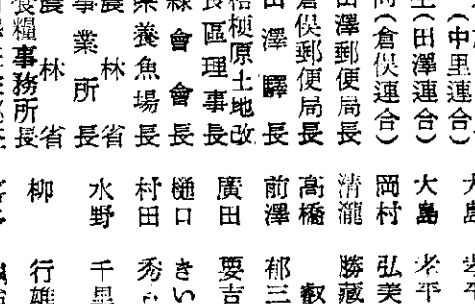
春 頌

中里村役場			
村長	渡邊 利三	助役	瀧澤 謙治
収入役	廣田富左衛門	事務主事	富井 喜重
倉庫員	瀧澤 謙治	支所長	外吏員一同



春 頌

中里村公民館			
公民館長	大島 孝平	副館長	板橋 龜治
書記	高橋 寅次	主事	狩野 利雄
書記	山本 茂穂	主事	山本 茂穂



春 頌

農業協同組合			
中里村 事務長	渡邊 利三	中里村 事務副長	村上 正二郎
中里村 事務員	高橋 謙藏	中里村 事務員	藤ノ木 利一
中里村 事務員	藤ノ木 利一	中里村 事務員	南雲 仁吉



春 頌

中里村議會			
議長	廣田 重政	副議長	高橋 門吉
議員	井ノ川三之助	議員	小卷 澤
議員	阿部 友重	議員	南雲 仁吉